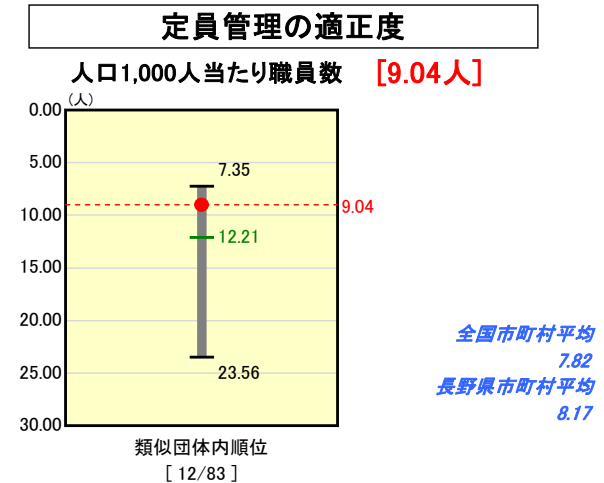
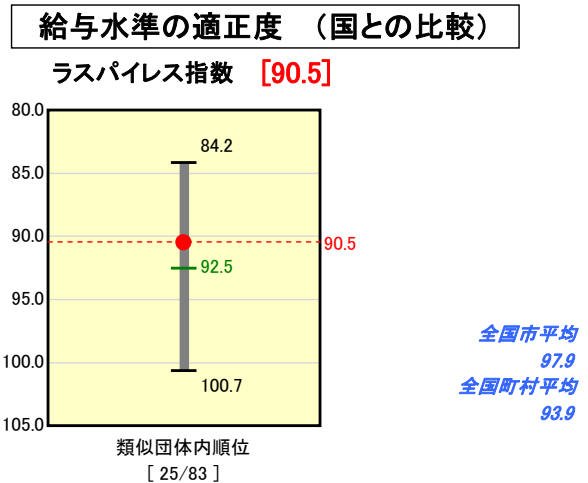
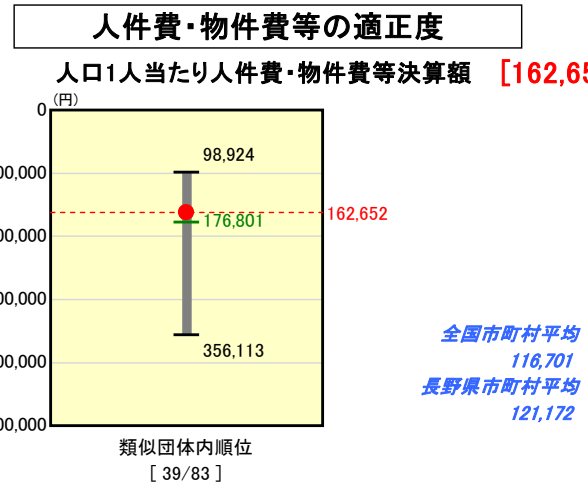
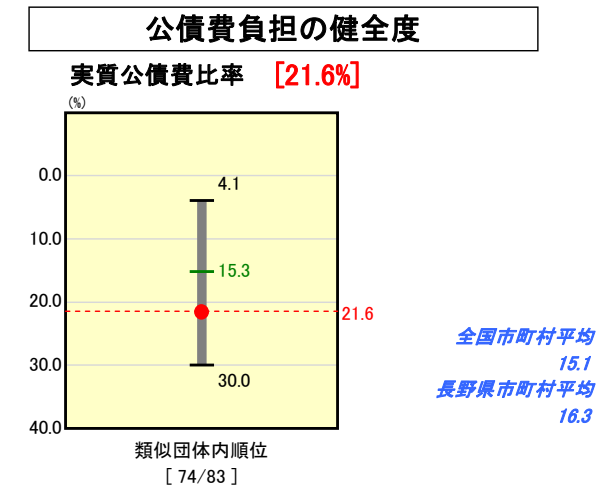
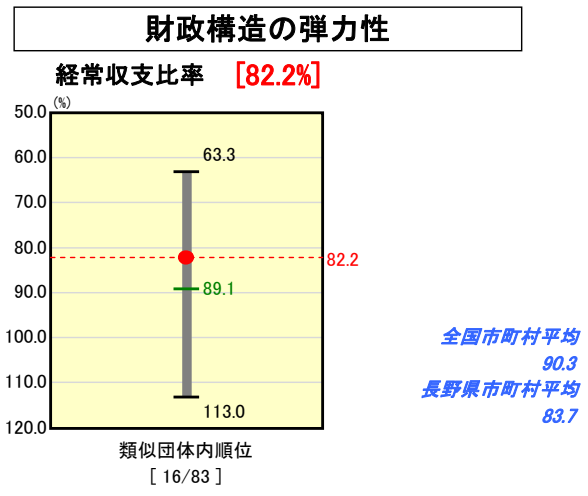
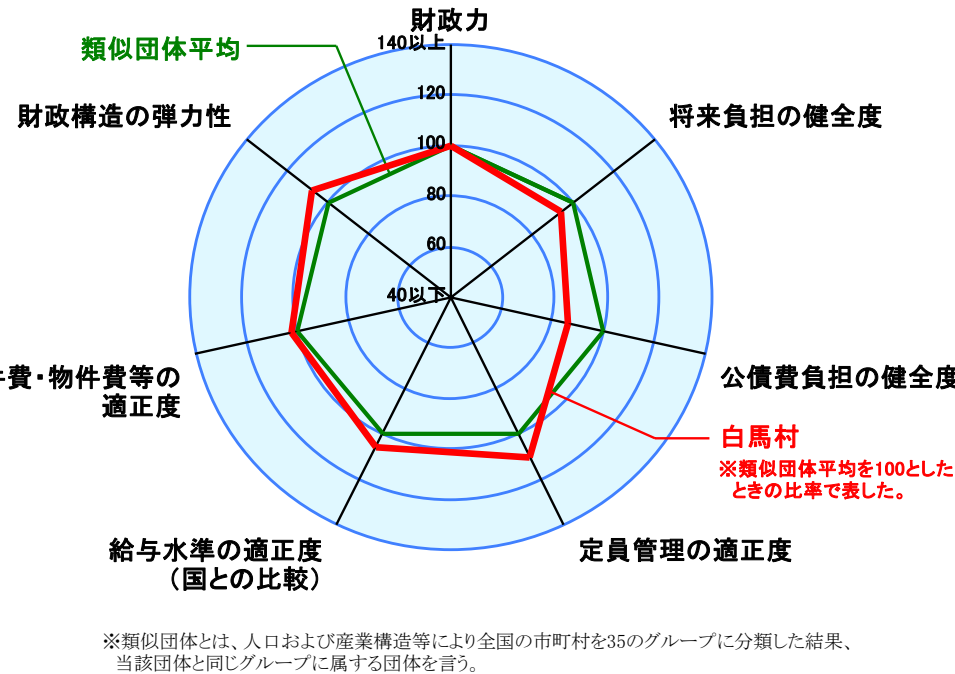
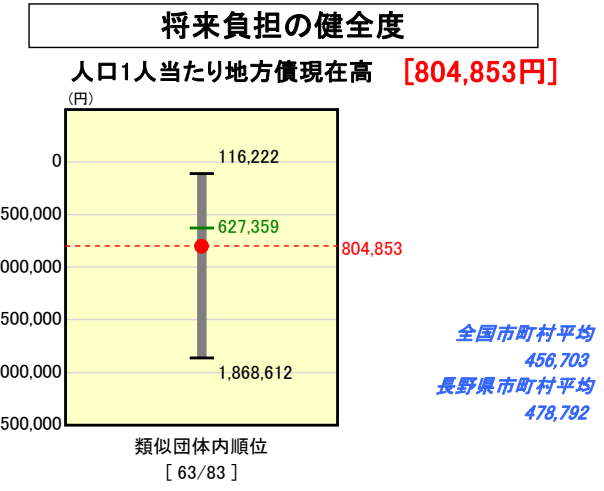
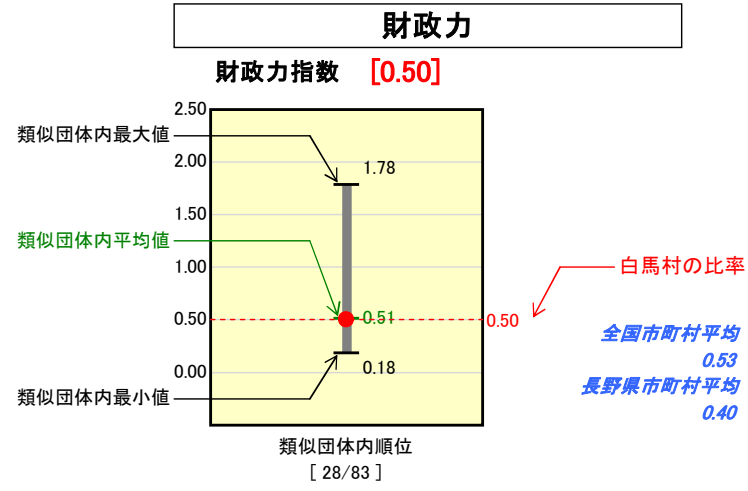


市町村財政比較分析表(平成18年度普通会計決算)

長野県 白馬村

人口	9,289 人(H19.3.31現在)
面積	189.37 km ²
歳入総額	5,132,243 千円
歳出総額	5,055,639 千円
実質収支	65,251 千円



※人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

分析欄

- 財政力指数:** 平成10年度ごろまでは、0.60前後を推移し、高水準にあったが、近年、村の主幹産業である観光産業の低迷等により税収が落ち込み、ここ6年間は、ほぼ類似団体平均の0.50前後を推移している。平成17年度から実施している徹底した歳出削減を引き続き実行するとともに、村税の滞納圧縮策に取り組む。
- 経常収支比率:** 村税等経常的一般財源の大幅な減少により、平成16年度以降80%を超え、悪化傾向が続いている。(H15は74.4%) 今後は、平成19年度策定した財政健全化計画に基づき、職員数の削減(H14-H24で8人減)、物件費の削減(H23-▲5%)を図り、平成23年度には80%を下回ることを目標とする。
- 実質公債費比率・人口一人当たり地方債現在高:** 平成10年の長野冬季オリンピック主要競技会場地としての大規模集中投資(競技施設整備・関連道路整備、公共下水道事業、社会体育館複合施設等々)により、実質公債費比率、一人当たり現在高とも類似団体を大きく上回っている。まだまだ高負担となっているが、地方債残高は、ピーク時(H9)に比べ平成20年度決算には約0.56に縮小される見通しで、H17-H19にかけては民間資金の借換を実施し、公債費負担の低減に努め、今後も平成19年度策定の公債費負担適正化計画に基づき、毎年新規借入額を元金償還額の半分程度に抑えるなどして、実質公債費比率を単年度ベースでは平成22年度、3か年平均では平成24年度には18%以下とする。また、一人当たり残高も平成23年度には、580千円(▲28%)程度に減少する見込み。
- ラスパイレース指数:** 厳しい財政状況を踏まえ、昇給制度の見直し(H16)、職員の給料カット(H17から実施・一般職H17・18-3%、H19-5%・特別職14-25%)等の人件費抑制策をとり、類似団体平均を下回っている。
- 人口1000人当たり職員数:** 平成10年以降、退職者不補充(退職者>採用数)による職員数の削減がはかられ、集中改革プランの数値目標(H22. 4月96人)をH19. 4月時点で達成(92人)しており、類似団体平均値の12.21人に比べ9.04人とかなり下回っている。今後も平成26年度89人の目標に向け、事務事業の見直し、合理化を推進していく。
- 人口1人当たり人件費・物件費等決算額:** 当村は豪雪地帯であり、多額な除雪経費(維持補修費)がかかるため、この数値は、その年の降雪量に左右される傾向にある。平成18年度は前年とは対照的に降雪が少なく、1人当たり決算額も23千円(12.4%)減少している。除雪経費以外の物件費、人件費は、委託の見直しやラスパイレース指数の項目で記述した人件費抑制策をとってきており、今後とも類似団体平均を下回るよう努める。